

農村の中学生の対人関係と地域性

—— 茨城県稲敷郡桜川村浮島の場合 ——

白 幡 悦 子

§ はじめに

筆者はさきに、浮島を対象地とする、住民の生活、生活態度、社会・文化的変容に対する適応の様態をとらえるための調査に参加した。^{註1}その際、筆者はとくに青少年の生活、生活態度の調査を分担したのであるが、それは、生活を、その地域の地理的、社会的、文化的環境への適応として考えるとき、子どもたちのそれは大人たちがおかれていると同じ環境条件への適応という面と、すでにそれらの環境への適応として営まれていた大人たちの生活への適応という二重の構造をもたざるを得ない。つまり子供たちにとっては大人の生活それ自身が適応の客体とならざるを得ない^{註2}と考え、大人たちは別の視点からの調査を実施したのである。

その結果、全般的にみて、浮島の青少年の生活および生活態度は現状容認的であり、将来に対しても、行動のレベルで特に、積極的姿勢を示していないという印象を濃くしたのであった。さらに大人たちとの関係では、家庭内にあってその接触・交流が表面的、皮相的に流れ、大人（家族）と子供の相互の要求や主張が、家庭生活という人間関係の場で交錯しあわず、たがい一方通的な様相を示しているように思われた。そしてこのようなことが、種々の外的事情から変貌を余儀なくされているとはいえ、すくなくとも現状では農業を生活の基礎としている社会にあって、その生活条件に対し、いわば無目的に適応している態度の一つの規定要因ではないかと推測された。

そこで前号の問題の展開として、中学生の家庭内における人間関係、友人たちとの関係の実態をより詳細に調査し、その面から、浮島という一農村地域の社会・文化的環境における適応の問題を考察してみたいと考える。ここで付言しておくが、表題の“地域性”ということは、他地域との比較などは意味しない。前号でわれわれが一応結論づけたような浮島の人々の基本的な適応様式——現状容認的、消極的適応様式——が中学生の家庭を中心とする対人関係の場

にどのように映しだされており、地域のおかれている諸条件といかに相互作用的にからみあっているかという関心から、地域性という語を選んだのである。

なお、今回の調査にあたっては、桜川中学浮島分校主事岡崎恒夫先生はじめ教職員各位、生徒各位からなみなみなならぬ御協力を頂いた。ここに深甚の感謝を表する次第である。

§ 調査対象と方法

調査対象は前回と同じく浮島中学校（桜川中学浮島分校）全生徒とし、調査当日の前日（あるいは前々日、要するに一定の特定の日）起床から就寝までの間に家族と交わした会話を始め、交渉のすべてを列記せしめ、同様のことを友人との間についても記載せしめた。あわせて、家族に対する希望、注文も調査した。（本稿末尾参照）この調査を夏休み前、夏休み中、11月下旬（農繁期中の実施を計画していたが都合によりやや遅れた）の3回実施した。これは、家族との接触が平常より多いであろうと想像される夏休み中、逆に比較的すくなくなるであろうと想像される農繁期の時期、それに平常通り通学している時期をそれぞれ選び、時期によるかたよりをなるべくすくなくすると同時に、一回だけの調査で蒙る偶然性の支配をすこしでも免れたいと考えたからである。

調査対象を一覧表に示せば第1表の通りである。調査対象者の同居家族数は平均5.48人、同胞数は平均2.48人、対象者は末子が最も多く、長子、中間子、一人児の順となっている。家族の世代数は平均2.7代、両親の平均年齢は父親41.6才、母親39.7才である。また出稼ぎ等で別居中の家族数は第1回調査時45件延59人、うち父が別居のもの8人、第2回時48件、延67人、父別居7人、第3回時44件、延61人、父別居9人であり、別居は兄弟が主で、その影響は特記するほどのことはないと思われる。

第1表：調査対象者数

調査回次 学年	I				II				III			
	1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計
男	11	20	17	48	16	20	17	53	16	23	17	56
女	19	29	30	78	18	28	30	76	21	30	30	81
計	30	49	47	126	34	48	47	129	37	53	47	137
調査年月日	S. 41. 7. 21				S. 41. 8. 4				S. 41. 11. 18			

(生徒総数 142名)

§ 調査の結果

まず、家族との接触、友だちとの接触、家族への注文・希望について記入された回答数を第2表に示した。これはあくまで記入された数であって、記入数即接触回数とみることとはできないであろう。この点を考慮にいれて第2表をみると、請査の回次によって記入数にはあまり大きな差はなく、調査時の時期的な影響があるのではないかという予想は記入数に関してはあたらなかったことになる。概して1年生の記入数がすくないのが目立つが、実態として接触・文渉がすくないということのほか、調査票に記入するという形式が1年生の場合にはやや問題があったのかとも考えられる。しかしこれも想像の域を出ないことで、中学1年ともなれば文章で表現することにさほど困難があるとも思えないのである。以下の記述は、いうまでもないことであるが、記入された結果の範囲でおこなうことになる。

第2表： 調査各項目への記入数

項目	回次 学年	I				II				III			
		1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計
		家族との接触	頻数	50	215	154	419	49	210	185	444	70	200
	平均	1.7	4.4	3.3	3.3	1.4	4.4	3.9	3.4	1.9	4.6	4.3	3.4
友だちとの接触	頻数	48	180	109	337	38	135	112	285	44	187	157	388
	平均	1.6	3.7	2.3	2.7	1.1	2.8	2.4	2.3	1.2	3.5	3.3	2.8
家族への注文・希望	頻数	44	129	63	236	35	93	76	204	32	99	75	206
	平均	1.5	2.6	1.3	1.9	1.0	1.9	1.6	1.6	0.9	1.9	1.6	1.5

(平均は調査対象者1人あたりの平均記入数)

1. 家族との接触

イ) 対象

家族のなかでは誰と最も接触が多いか、さらにそれは誰からか、誰へかを示したのが第3表A及びBである。前後3回の調査を平均して図示すると第1図のようになる。これらによると対象としては母が圧倒的に多い、接触の方向としては母あるいは父などからなされる方が、それらへ対してなされるものの約3倍に及んでいる。従って接触の対象と方向は家族のなかの特定のものに集中していることがわかる。

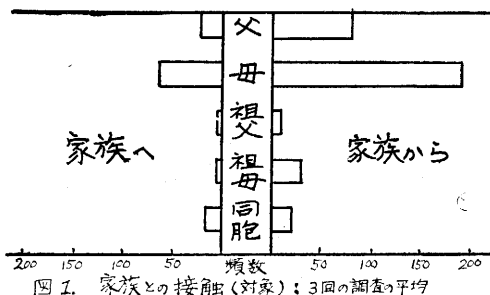
第3表 A : 家族との接触 (対象)

学年 家族 \ 回次	1			2			3			計		
	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III
父 から→	11	7	16	38	37	32	29	36	32	78	80	80
母 //	19	19	22	117	90	92	51	68	82	187	177	196
祖父 //	1	1	1	3	5	7	5	3	8	9	9	16
祖母 //	4	3	6	11	10	8	14	19	17	29	32	31
兄弟 //	2	3	1	5	9	11	9	6	6	16	18	18
弟妹 //				2	1	3	1	3	2	3	4	5
家の人 //		1		1	2	2	1			2	3	2
? //	1						1			2		
計	38	34	46	177	154	155	111	135	147	326	323	348
平均	39			162			131			332		

(数字は頻数、以下おなじ)

第3表 B : 家族との接触 (対象)

学年 家族 \ 回次	1			2			3			計		
	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III
父 ←	1	5	3	8	8	8	5	15	13	14	28	24
母 //	10	7	17	21	34	23	29	21	27	60	62	67
祖父 //		2			6	1	1	1	2	1	9	3
祖母 //	1	1	1	2	1	2	3	2	5	6	4	8
兄弟 //			2	2	5	4	3	3	4	5	8	10
弟妹 //				2	2	7	1	7	4	3	9	11
家の人 //			1	2				1		2	1	1
? //				1			1			2		
計	12	15	24	38	56	45	43	55	55	93	121	124
平均	17			46			49			113		



ロ) 接触の時刻

家族との接触・交渉は一日のうち何時が多いか。午前中(登校前), 午後(下校から夕食までの間), 夜(夕食後)に大別してみると第4表のようになる。3回の調査を平均してみると, 午前, 午後, 夜ではそれほど大きな差はみられないようであるが, 回次ごとにみればそれぞれ時間的なちがいがみられる。これはおそらく調査の時期によって, 中学生の生活時間の配分にちがいがあることによるのであろう。

第4表： 接触の時刻

時刻	学年			2			3			計		
	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III
午前中(登校前)	12	16	15	51	90	61	41	63	64	104	169	140
午後 (下校-夕食)	13	9	19	92	54	46	63	66	46	168	129	111
夜(夕食後)	20	18	31	72	66	93	50	56	92	142	140	216
?	5	6	5							5	6	5
計	50	49	70	215	210	200	154	185	202	419	444	472
平均	56			208			181			444		

ハ) 接触の内容

家族との接触・交渉の内容はどのようなものであろうか。どのようなことが話されたり, 依頼されたり, また応答されたりしているのでしょうか。ここでも家族からの接触と, 家族への接触とをわけて整理してみた。その結果が第5表AおよびBであり, 3回の結果を平均して図にしたものが第2図である。これによると「起きなさい」「寐なさい」「風呂に入りなさい」等の日常の指図

が最も多く、ついで手伝いなど用事のいいつけが多い。とくにこの用事のいいつけの場合は、第Ⅱ回次（夏休み中）3年生の記載が多いが、内容は簡単な家事の手伝いが主である。全体を通じ農事の手伝いをいいつけられるのは皆無ではないまでも極めてすくない。以上のような日常の起床、就寝等の指図、簡単な用事の依頼が母、父からなされる接触の大半である。これは接触の内容と対象の関係をみるとはっきりする。（第6表AおよびB）家族への接触では「〇〇を買って」「小遣いをくれ」がもっとも多く、ついで日常的な会話や用事の依頼である。学校での出来事や、友だちのことを話すことは、これによると非常にすくない。

第5表 A： 家族との接触（内容）

家族から→ 内容	学 年			2			3			計			
	回 次			I II III			I II III			I II III			
	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III	
起きろ、寝ろ、風呂へ入れ等の指図	12	13	16	73	45	74	35	45	72	120	103	162	
勉強しなさい	4	6	9	7	19	11	6	3	9	17	28	29	
帰ったらすぐ勉強せよ、遊びとのけじめ、 学習の仕方や態度に関する注意	3		1	3	4	2		1	1	6	5	4	
成績票、テスト結果等をみせよ				2		2	1		1	3		3	
～をやれ、してくれ、手伝え等用事のいいつけ	9	8	10	46	41	30	31	57	20	86	106	60	
自分のことは自分で、いわれたことを早く きまりよく、はきはき等の注意	5	3		6	3	1	6	2	3	17	8	4	
早く帰るよう、よそで騒ぐな、等家庭外のことでの注意				5	4	1	3	1		8	5	1	
TVの音を低く、チャンネルをまわせ あまりそばでみるな	1		1	6	1	2	3	4	6	10	5	9	
相談、話しかけ、情報、日常会話質問			3	5	21	23	18	13	16	20	34	42	43
身体、健康上のこと				1	2	2	4	2	1	5	4	3	10
一緒にTV、遊び、指導等のさそい	2	1		1	3	1	2		1	5	4	2	
褒賞、よく勉強した、手伝った	1				6		1	1		2	7		
小遣いを上げる。～を買ってあげる	1		1	1		4	1		6	3		11	
その他（冗談など）				2	4	3	5	7	4	3	11	7	10
計	38	34	46	177	154	155	111	135	147	326	323	348	

第 5 表 B： 家族との接触（内容）

家族へ← 内容	学 年		1			2			3			計		
	回 次		I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III
～を買って、～がほしい、小遣いの請求			11	6	8	14	10	16	13	12	21	33	28	45
～をしてくれ、日常的用事の依頼					2	4	5	9	7	5	15	11	10	26
～してもよいか、許可をもとむ					1	2	7	5	1	2	1	8	8	3
報告、情報、日常的会話、質問等					3	4	4	17	6	13	8	9	17	28
学校でのことを話す			1		6	1		1	1		2	3		9
教えてもらう、教えてあげる				3	1	1	2	2		2		1	7	3
～をしてあげる。（自発的に）						1	2	1	2	7	2	3	9	3
一緒に遊ぼう、誘い				1		1	7				2	1	8	2
話しあい、報告をきく、こちらから話し合う				1			3	4	5	5	2	5	9	6
TVチャンネル、TVについて					1	1	2	6		2		1	4	7
非難、注意、抗議等							1	2	1	3	1	2	5	1
その他							3	1		4		3	5	
計			12	15	24	38	56	45	43	50	55	93	121	124

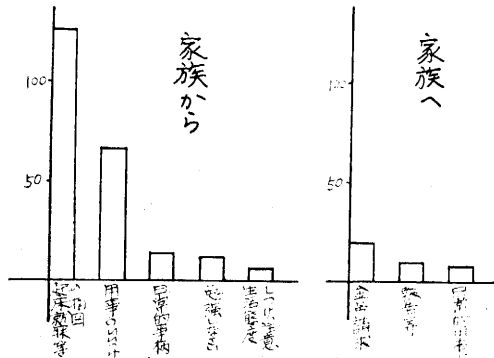


図 2. 家族との接触 (内容) : 3回の調査の平均

第6表 A : 家族との接触(内容と対象)

内 容	家 族			父から			母から			祖父から			祖母から			兄弟から			家の人から			?
	回 次			I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III	
	I	II	III																			
起さろ、寝ろ、風呂へ入れ等の指図	25	28	32	81	63	105	2	3	8	9	6	10	2	1	6	1	2	1	1	2	1	
勉強しなさい。	3	2	10	13	18	12		1	2		3	2	1	4	3							
学習の仕方や態度に関する注意	2	3	2	2	2	2				1												
成績票、テスト結果等を見せよ	3		2			1																
～をやれ、してくれ、手伝え等用事のいいつけ	19	28	12	46	53	38	5	2		9	12	6	7	9	3	2						
自分のことは自分で、きまりよく等の注意	6	3	1	6	3	2				3	2		1	1	1				1			
早く帰るよう等、家庭外のことでの注意	4			3	4	1				2	1											
T Vの音を低く、チャンネルをまわせ等	7		2	3	2	2						4	1	2	1							
相談、話しかけ、情報、日常的会話、質問	4	12	8	22	21	20	1	2	3	4	6	7	2	2	1	1	1	1			2	1
身体、健康上のこと		1	2	4	2	7								1								
一緒にT V、遊び等のさそい	3	1	1	1	1								2	2							1	
褒賞、よく勉強した等			2	3					1		2											
小遣いを上げる。～をかってあげる	1	5	2	2	3	3									1						1	
その他	1	2	3	5	4	3				1	1	2		1	1	2	1	1			1	
計	78	80	80	187	177	196	10	9	16	29	32	31	16	18	81	3	4	5	3	3	2	2

第 6 表 B : 家族との接触 (内容と対象)

内 容	家 族																			
	父 へ		母 へ		祖父へ		祖母へ		兄弟へ		兄弟へ		家の人へ		?					
	I	II	I	II	I	II	I	II	I	II	I	II	I	II	I	II	III			
～買って、～がほしい, 小遣いの請求	3	7	10	31	19	31														
～をしてくれ, 日常的用事の依頼	1	2	6	7	2	14	1											2		
～してもよいか, 許可を求む	3	1	1	3	6	1														
報告, 情報, 日常的会話, 質問等	3	7	3	10	19	11	3	1										1		
学校でのことを話す	1			2		6														
教えてもらおう, 教えてあげる	1	2			2	1												1		
～をしてあげる (自発的に)	1	1	1	1	4	2	1											3		
一緒に遊ぼう, 誘い	1	2			3													1		
話し合い, 報告をきく等	1	3	2	4	4	1												2		
TVについて			1		1															
非難, 注意, 抗議	2			1														1		
その他	1	1		1	2													1		
計	14	28	24	60	62	67	1	2	3	6	8	8	5	10	3	12	11	2	1	2

二) 接触の結果

上にみたような家族からあるいは家族への接触はどの程度、受けいれられたり、拒否されたりしているであろうか。第7表AおよびBにその状態を、第8表AおよびBに接触の内容を結果との関連を示した。これによると結果不明が多いが、それ以外では全体として、ほぼ相互にはたつきかけは受諾され、実行されている。しかし、家族からの起床・就寝、入浴等の指図は放置される例が多くみられた。これは内容がごく日常茶飯事の事でどこにでもみられる情景であろう。この起床、就寝等の指図と用事のいつけでは結果の不明のものかなりあるが、このなかには放置され、またいつけた方もその後あまり追求もしなかったというような例がかなりあるであろう。

第7表 A : 家族との接触 (結果)

学年 家族から→ 結果		1			2			3			計		
		回次			回次			回次			回次		
		I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III
実行・受容・受諾		10	10	17	60	59	51	30	52	61	100	121	129
後刻実行・受諾		4	2	6	6	12	15	2	12	12	12	26	33
拒否		3	1	3	7	11	11	11	4	8	21	16	22
放置・怠慢・叱責 etc.		7	8	2	30	16	13	24	16	14	61	40	29
その他				1		1	1	2	2	1	2	3	3
結果不明		11	12	14	66	48	49	38	43	43	115	103	106
特に結果を要せず		3	1	3	8	7	15	4	6	8	15	14	26
計		38	34	46	177	154	155	111	135	147	326	323	348

第7表 B : 家族との接触 (結果)

学年 家族へ← 結果		1			2			3			計		
		回次			回次			回次			回次		
		I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III
実行・受容・受諾		2	7	15	14	28	22	23	19	34	39	54	71
後刻実行・受諾			3		1	4	1	1	1	1	2	8	2
代理実行・受諾		7		1	2	1	2	4	3	3	13	4	6
拒否			1	2	4	4	5	3	6	5	7	11	12
放置・怠慢					2		1	1		1	3		2
その他				2	1	4	2		4	1	1	8	5
結果不明		2	2	4	8	7	12	7	10	6	17	19	22
特に結果を要せず		1	2		6	8		4	7	4	11	17	4
計		12	15	24	38	56	45	43	50	55	93	121	124

第 8 表 A : 家族との接触 (内容と結果)

結果 回数	実行・受容 ・受諾			後刻実行・ 受諾			拒 否			放置・怠慢 ・叱責			その他			結果不明			特に結果を 要せず								
	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III						
																						I	II	III	I	II	III
家族から→ 内容																											
起きろ, 寝ろ, 風呂へ入れ等の指図	36	24	43	9	17	27	4	1	10	29	26	22	1	2	42	34	58										
勉強しなさい	5	8	9	2	2		3	5	5	5	4	3			7	11	10										
学習の仕方や態度に関する注意	2	3	2	1						1					3	2	1						1				
成績票, テスト結果等のみせよ	2		2														1										
～をやれ, してくれ, 手伝え等用事 のいいつけ	28	53	38	2	7	3	12	5	3	16	7	3	1		28	33	13										
自分のことは自分で, きまりよく等 の注意	3	3								3		1			1	11	4	2									
早く帰るよう, 家庭外のことでの注 意	1	1	1				1								4	4	1	2									
T.Vの音を低く, チャンネルをまわ せ等	5	3	3	1	1		1	1	2						4	4	1	4									
相談, 話しかけ, 情報, 日常的会話 質問	12	22	20	2	1	1	2	1	1	4	2				13	10	8	3	6	14							
身体, 健康上のこと	2		3			1		2							2	1	4	2						2			
一緒にT.V, 遊び等のさそい	1	1	1				2								1	1	1	3	1						1		
褒賞, よく勉強したなど		2															1	2	4								
小遣いを上げる, ～を買ってあげる	1		5				1										1	1	5						5		
その他	2	1	3				1			3							1	3	4	3						3	
計	100	121	129	12	26	33	21	16	22	61	40	3	2	3	311	15	103	106	15	14	26						26

第8表 B：家族との接触（内容と結果）

家族 ← 内容	結果			拒否			放置・怠慢・叱責			その他			結果不明			特に結果を要せず							
	回数			代理実行・受諾			拒否			放置・怠慢・叱責			その他			結果不明			特に結果を要せず				
	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III		
～を買って、～がほしい、小遣いの請求	14	13	29	1	5	1	12	4	6	3	3	5	3	1	1	2	4	2	2				
～をしてくれ、日常的用事の依頼	5	4	10	1	1	1	1			2	1	2				2	4	12					
～してもよいか、許可を求む	3	5	3							2	1						3				1		
報告、情報、日常的会話、質問等	10	11	12									2					6	2		1	14	4	
学校でのことを話す			5															2			3		
教えてもらう、教えてあげる	1	5	2		1	1													1				
～をしてあげる（自発的に）	3	7	3							1									1				
一緒に遊ぼう、誘い		2	2							2									4			1	
話しあい、報告をさく、等	3	6	3									1								1	2	2	
TVについて		1	2																	2	2	3	1
非難、注意、抗議						1														2	1	1	
その他																				2	1	3	2
計	39	54	71	2	8	2	13	4	6	7	11	12	3	2	1	8	5	17	19	22	11	17	4

2. 友だちとの接触

友だちとの接触の状況を、その対象、内容および対象と内容との関連にわけて、それぞれ第9表、第10表、第11表に示した。これによると、特定の個人との学習やテストに関する話しかけが最も多いが、これも宿題の箇所やテストの範囲などの問合せや応答がほとんどで、さほど深い内容のものではない。友だちのこと、自分の家庭のこと、あるいは将来のことを話題にしたという例は、ここにあらわれた限りではごくすくない。

第9表 : 友だちとの接触(対象)

対象	学年			2			3			計		
	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III
特定個人と	21	21	30	120	88	140	68	80	117	209	189	287
特定数人と	22	16	5	57	47	47	32	31	40	111	94	92
不特定多数と	3		8	3			4			10		8
不明	2	1	1				5	1		7	2	1
計	48	38	44	180	135	187	109	112	157	337	285	388
平均	43			167			126			337		

第10表：友だちとの接触（内容）

内 容	学 年			2			3			計		
	回 次			I	II	III	I	II	III	I	II	III
	1	2	3									
野球，バレー等の練習，戸外ゲーム	10	1	9	14	1	13	5	4	14	29	6	36
室内ゲーム，クイズ等	2	6	1	8	12	4	5	4	1	15	22	6
学習，学課，宿題，テスト等の問合せ	4	4	23	42	22	54	25	27	33	71	53	110
学校の行事，クラブ活動，合宿等	10	1		22	6	20	8	2	16	40	9	36
友だちのことを話す	1			1					1	2		1
家庭，家族のことを話す							1	1	1	1	1	1
買物の相談，買物と一緒にいく	2	1		11	8	3	1	5	1	14	14	4
どこか（浮島外）へ行く約束，～へ行く				4	4	3	4	4		8	8	3
近くで遊ぶ（水泳，しじみとり）	3	10		3	14		10	3		16	27	
登校・下校を一緒に，さそい	2		1	9		18	10	13	25	21	13	44
学校での仕事を一緒に	2		1	3		5	6		7	11		13
T V，ラジオの視聴				4	6	8	2		4	6	6	12
映画，芸能，プロスポーツの話題												
日常の事柄，依頼	3	8		18	20	22	8	17	16	29	45	38
情報，連絡，伝言，誘い	3	4		19	32	17	7	18	16	29	54	33
将来（卒業後）のこと									2		54	2
心配事，なやみなどの相談	3						2			5		
～を上げる，貰う，貸借，返済等	1		6	1	3	16	3	8	14	5	11	36
夏休み，冬休み中のプラン	1	3	1	13	5		4	3		18	11	1
注意，非難など	1			4	2		3	3	4	8	5	4
その他			2	4		4	5		2	9		8
計	48	38	44	180	135	187	109	112	157	337	285	388

第11表 : 友だちとの接触 (対象と内容)

内 容	対 象			特定個人と			特定数人と			不特定多数と			不 明		
	回 次			I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III
	I	II	III												
野球, バレー等の練習, 戸外ゲーム	8	1	9	12	5	19	1			8	1				
室内ゲーム, クイズ等	7	4	2	8	18	4									
学習, 学課, 宿題, テスト等の問合せ	61	41	97	9	12	12							1		1
学校の行事, クラブ活動, 合宿等	15	2	27	21	7	9	3						1		
友だちのことを話す	1		1							1					
家庭, 家族のことを話す	1	1							1						
買物の相談, 買物に行く	7	7	2	7	5	2								2	
どこかへ行く約束, ~へ行く	5	6	3	3	2										
近くで遊ぶ	8	12		8	15										
登校・下校を一緒に, さそい	13	8	30	7	5	14	1								
学校での仕事を一緒に	8		9	1		4	1						1		
TV, ラジオの視聴	3	3	7	2	3	5							1		
映画, 芸能, プロスポーツの話題	20	33	30	8	12	8							1		
日常の事柄, 依頼	22	49	28	6	5	5	1								
情報, 連絡, 伝言, 誘い															
将来のこと			2												
心配事, なやみなどの相談	3			2											
~を上げる, 貰う, 貸借, 返済等	5	11	32			4									
夏休み, 冬休み中のプラン	12	7	1	5	4		1								
注意, 非難など	4		1	2		3	1						1		
その他	6	4	6	3	1	2									
計	209	189	287	111	94	92	10			8	7	2	1		

3. 家族への注文・希望

前回の調査の際にも家族に対しての注文・希望を問うたが、そのときには無答の者が多く、全体の51%に達し、その事実^{註3}に驚きを感じたものであった。

今回の調査では無答は第Ⅰ回次17%、Ⅱ回次11%、Ⅲ回次15%であり、一つには調査場面への慣れが回答をうながしたものと想像される。

家族への注文・希望の表明されている対象は第12表に示すように母に対してがもっとも多く、父がそれよりほんの僅かすくない。兄弟に対してがそれらにつぐが、弟妹までを含めれば同胞への注文・希望もかなりの数にのぼる。これら対象は接触の対象の順位と一致している。

注文・希望の内容をみると(第13表)「小言をいわないで」「わけもわからないのに怒らないで」等というもの、また「ひとにあたらないで」「自分勝手はやめて」「いばらないで」等、態度や性格についての注文や批判が目立っており、この傾向は前回の調査の結果と同様である。これらの注文や希望を対象別にわけてみると第14表のようになり、ここでも母親を主とする日常のこまかい指示や世話への反応が前面にでているのがみられる。内容をいくぶん整理し、3回の調査結果を平均して図示したのが第3図である。

第12表： 家族への注文・希望(対象)

対象	学年 回次	1			2			3			計		
		I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III
父	へ	11	9	8	39	25	28	23	25	20	73	59	56
母	へ	18	14	8	37	30	30	20	21	21	75	65	59
祖父母	へ	6	3	2	13	6	3	2	5	6	21	14	11
兄弟	へ	4	6	7	26	16	20	13	19	11	43	41	38
弟妹	へ	2	2	3	10	16	12	2	5	11	14	23	26
家族	中	3	1	4	4		6	3	1	6	10	2	16
	計	44	35	32	129	93	99	63	76	75	236	204	206
平均		37			107			71			215		

第13表 : 家族への注文・希望(内容)

家族への注文	学 年			2			3			計		
	回 次											
	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III
勉強をみて貰いたい, 教わりたい	1	1	4	6	3	5	3	4	3	10	8	12
勉強以外のことで教わりたい, (ミシン)	3	5	2	7	5	3	5	6		15	16	5
もっと小遣いがほしい, ~を買って貰いたい	7	5	4	8	3	12	4		6	19	8	22
旅行, どこかへ連れて行って	6	2	1	2	3	4	2		1	10	5	6
一緒に遊びたい, ~をしたい	1			3	2	1	1	6	1	5	8	2
勉強々々といわないで	3			3	7	10	2	1	8	8	8	18
勉強のことに口をださないで												
小言をいわないで, わけもわからず怒らな	11	8	2	19	19	16	11	12	9	41	39	27
うるさく世話をやかないで, そっとしてお	3	3	3	9	6	2	4	5	3	16	14	8
いて												
理解してほしい, 自由にさせて			1	5	6	3	1	4		6	10	4
兄弟を公平に, (自分ばかり怒らないで)				5	3	2	1			6	3	2
きちんとして, 態度・性格への批判	2	4	2	16	20	14	10	17	9	28	41	25
勉強に関心をもって, 学校へきてほしい				1		2	1			2		2
用事をいいつけないで	1	4	1	10	4	1	4	11	2	15	19	4
もっときびしくしてほしい	1			2	2	1	1		1	4	2	2
仕事を与えてほしい												
話しあいたい, 相談にのって		1	2	2	1	2	1	3	5	3	5	9
酒・煙草をのまないで			1	3		3		1	3	3	1	7
身体に気をつけて	1	1	2	1		1	2	3	4	4	4	7
TVに関して	1		2	6	4	6	4	1	10	11	5	18
その他	3	1	5	21	5	11	6	2	10	30	8	26
計	44	35	32	129	93	99	63	76	75	236	204	206

第14表： 家族への注文・希望（対象と内容）

対象 回次	父			母			祖父母			兄姉			弟妹			家族中			
	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III	
	注文・希望の内容																		
勉強をみて貰いたい, 教わりたい	1			1	6	1				8	8	12							
勉強以外のことで教わりたい	3	3		4	6			1		6	6	4							
もつと小遣いがほしい, ~を買って貰いたい	10	2	10	7	5	10	2	1				2							
旅行, どこかへ連れて行って	3	4	3	1	2	1	1									5	1	2	
一緒に遊びたい, ~をしたい	3	2	1							2	4								1
勉強タタといわないで, 口だしをしないで	2	1	1	5	6	12				1	1								1
小言をいわないで, 怒らないで等	11	10	12	22	20	6	3	5	5	4	1	2	1	2	3				
うるさく世話をやかないで等	1	3	1	9	5	4	3	2	1	1	1	1	1	2					1
理解してほしい等	3	6	2		3	2	3	1											
兄弟を公平に等	2	1		3	2	2	1												
態度, 性格への批判	8	11	2	6	3	4	2	3		5	7	7	7	17	12				2
勉強に関心をもって等	1			1															
用事をいっけないで	7	5	1	4	8	2	1			3	6	1							
もっときびしく, 仕事を与えて	1	2		3	2	2													
話しあいたい, 相談にのつて	1	3	4	1	1	2										1	1	3	
酒・煙草のままに	2	1	6							1	1	1							
身体に気をつけて	2		2	1	4	2	1												
TVに関して	3	1	3	2		2	1	1	2	3		4	1	2	6	2	2	1	1
その他	9	4	8	5	7	7	2			9	3	5	3	1	2	3	1	2	2
計	73	59	56	75	65	59	21	14	11	43	41	38	14	23	26	10	2	14	

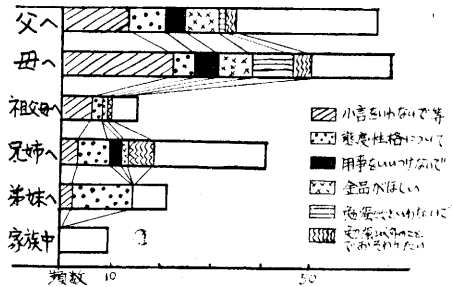


図3. 家族への注文・希望 (対象よって合計の平均)

§ ま と め

本稿のはじめにも述べたように、前回の調査では、浮島の青少年の生活および生活態度が現状容認的であり、自分のおかれている現実にも明確な課題意識をわいていているという結論に達した。それは適応という面からいえば、そこでの適応はかなり無意識的、無目的的であるということであった。そこでの子供たちと大人たちとの関係をみると、両者の注文や批判が互いに交わることのない平行線を描き、両者がまさに接触し、しかも両者の主張や要求がぶつかりあう家庭という場面で、生産的な絡みあいがなされていないと思われた。すなわち子供たちは大人に対して「してもらいたいこと」と同時に多くの「してもらいたくないこと」をもっており、一方大人たちも子供に対して「思うようにならない」「あれでは困る」といったもどかしさをいっているのであるが、大人はそうした子供の態度や問題点の改善を学校がきびしくしつけてくれればいと期待し、いわば責任を学校教育に転嫁している様子がありありとうかがえたのであった。基本的にこうした姿勢である限り、本来、当事者間においてなされるべき事態の改善はもとより、両者の接触そのものも根の浅い表面なものとならざるをえないであろうと感じたのである。

そこで今回は家庭を中心とする大人たちとの接触・交渉の実態を、また子供たち同士、友だちとの接触の実態を調べ、あわせて再び大人への希望・注文をさぐってみたわけである。

さて、その結果であるが、調査の方法・技術のうえで問題はあったにせよ、あらわれた結果では当初の予想どおり、家庭での両親を中心とする大人との接触・交渉は、日常の起床や就寝等をめぐる、いわば機械的なはたらきかけとその応答が主で、表面的接触という印象をこえるものではなかったといえる。

友だちとの接触でも、ちょうど大人たちとの家庭での接触に対応するかのよう
に、日常的な質問、応答が主となっている。もとより毎日の生活のなかでは、
以上のような平凡なやりとりが主であることは不思議とするには当たらないであ
ろう。しかしあまりにもそれに終止しているという感じがしてならない。

接触・交渉の内容がごく日常的な、生活上欠かせないものではあっても、ど
ちらかといえば外面的な接触であるのに対応して、家族への注文・希望でも
「小言をいわないで」「用事をいつけないで」というものが多く、家族を態
度や性格への批判でも自分への接し方や態度にかかわるものが優先している。
これらの結果から、家族と交渉は全般的に表面的であり、それぞれに相手に要
求するという一方通行的な接触の様態がみられるといえる。前回の調査におい
て、浮島の社会・文化が住民の受動的消極的パーソナリティと相互規定的な関
係にあることをみだが、こうした適応様式が家庭内での人間関係にもみいださ
れるといえよう。

人格の完成は真の自我の発達を前提としており、真の自我は現実の生活のな
かでの問題解決によってつちかわれるところの人格的な力、たとえば現実吟味
の能力やフラストレーショントランスのうえに築かれると考える。子供と大
人、子供と現実の間にこの課題意識にひきいられる相互作用が欠如する場合
には人格の発達はそれだけ遅滞を余儀なくされるであろう。一面で人間の行動を
律する「社会的文化的準拠枠」もこうした相互作用の過程で組みたてられてこ
そ、自我に定着し、生活に立脚したものとなり得ると思われるが、親たちとの
本来の意味での接触・相互作用が稀薄になりつつあるなかでは、テレビやマス
コミを通じて、即ち準拠枠の不特定かつ非現実的、抽象的代表を通じて与えら
れる準拠枠は、むしろ自らの生活との断層を作り出す結果ともなっているよう
に思われる。浮島ではほとんどの家庭にテレビが入り、前回の調査でも中学生
でテレビをみないと答えたものは1名にすぎなかった。しかもテレビの視聴時
間は自宅での学習時間を上まわり、中学生の生活のなかでテレビのしめる地位
は非常に大きいものがあつた。中学生は家族たちとよりも、あるいは友だち同
士とよりも、ブ라운管のなかの「現実」とより接触しているのではあるまい
か。もしそうであるならば、こうした非現実との接触が、現実との接触の稀薄
さあるいは補い、あるいは真の現実との接触であるかのように錯覚させてい
るのではあるまいか。

すでに何度か述べたように、浮島の人々の生活および生活態度が全般的に現
状肯定的、消極的であるというのが、われわれのこれまでの調査の結論であつ
た。客観的には、あるいは第三者の目からはかなり危機感をとまなう状況であ

っても、一度消極的、退嬰的な生活態度が形成されてしまうと、とかく、自らの要求水準を下げることによって新しい状況に適応してしまったり、あるいは問題の根本的触決を回避して代償的行為によって欲求の安易を充足をはかるといった適応様態がくりかえされるものである。われわれは、青少年をも含めて浮島の人々のなかにこの適応様式をみいだしたのであったが、今回の調査の結果みられた表面的人間関係は、以上の適応様式に対応するものであると同時に、すでにこの表面的、消極的適応様式が次世代の基本的な生活態度の特質となりつつあることを一部説明するであろう。

〔付 表〕

今回の調査で使用した調査票は大略以下の通りである。

◇きのう（べつにきのうとはかぎりません。おとといでもいいのです。ただはっきりおぼえている日）あなたが家の人とどんなはなしをしたか、どんなことをたのんだか、また家の人からどういうことをいわれたり、たのまれたりしたか。あるいはどんなことでしかられたり、ほめられたりしたか。これらを朝おきてから夜ねるまで順におもいだして、ありのまま書いて下さい。（注意・きのうのことを書くなら、おとといのことは書かないこと。別の日のことをまぜこぜにしないこと。）

何時頃	誰から誰へ	そのことがら（なるべく具体的に）とその結果どうなったかなど

◇きのう（まえでおもいだしたのと同じ日）あなたが友だちとどんな話をしたか、どんなことをしたか、朝おきてから夜ねるまで順によく思いだして、ありのまま書いて下さい。

何時頃	誰から誰へ	そのことがら(なるべく具体的に)とその結果どうなったかなど

◇あなたはふだん、家の人と、どういうことをしたいと思っていますか。またどういうことをしたいと思っていますか。またどうしてほしいと思っていますか。なるべく具体的に書いて下さい。

家の人	してもらいたいこと、一しょにしたいこと、注文や希望など。

各回答欄にそれぞれ記入例を例示し、被調査者に口答で説明して記入させた。このほか、被調査者の家族名、続柄、年齢、職業等を同居家族、別居家族それぞれについて一覧表に記入せしめた。

註 1) この調査の結果は下記に報告されている。

大宮録郎，木本英人，菊池哲彦，白幡悦子：農村社会における文化変容と適応のパターンについて（稲敷郡桜川村浮島の場合），茨城大学文理学部紀要（人文科学）第17号，P.23～88，昭41.12.

この他、日本心理学会第30回大会においても発表した。（日本心理学会第30回大会発表論文集，P.377及びP.378参照）

註 2) 青少年に対して、大人たちとは別の視点からの調査を行なった理由は本文でも

ふれたし、前掲報告にも述べたので重複の煩わしさを免れないが、前回および今回の調査の基本的な問題に関わると思われるので、ここで再度述べておきたい。

ある特定地域で比較的閉鎖的な生活を送る人達の生活は、その地域の自然的、社会的、文化的環境への彼らの適応という性格をそれだけ強くもつと考えられる。またそこでの生活態度には環境的要素の投影がより明瞭に観察されるであろう。こうした機制的追求を企図して行なわれる調査研究の対象たる「生活」はその地域の全生活なのであって、調査対象は本来全住民であるべきである。しかし適応としての生活の姿は年齢段階によって若干の差異を示すと考えられる。生活を、その地域の自然的、社会的、文化的環境への適応として考えるとき、子供たちのそれは、大人がおかれていると同じ環境条件への適応という面と、すでにこれらの環境への適応として営まれている大人たちの生活への適応という二重の構造をもつと思われる。即ち、大人たちの適応様式が子供たちのそのモデルを提供すると同時に、子供たちの適応の客体でもあるといえるし、子供たちにとっての文化的な環境条件のなかには、大人たちがそれまでに作ってきた適応様式も含まれるともいえよう。とくに中学生を重点的にとりあげたのは、前述のごとき適応の面での大人とのかかわりあいだが、自我に目ざめるはずの中学生の年代ではかなり明瞭に観察されるだろうと期待したからである。さて、さらに、文化的変容ということに関しては、大人の場合には過去のある時期での生活と現在のそれとの比較という時間的推移のなかで、文化的変容とそれへの適応様式をとらえたが、子供の場合には大人と同じ意味で過去のある時点と現在との比較を行なうことはできない。従って大人の生活をも含めて変容しつつある文化的な環境条件の下で、子供がいかに対処しているかを解くことが主要な課題とならざるをえないと考える。

註 3) 前掲, P.76